

2014
小笠原フォトコンテスト
結果発表

小笠原村産業観光課

※敬称略

※作品の無断使用禁止



金賞 「波の便り」 須田 泰臣

■榊原特別審査員コメント

ジニービーチは父島の海岸の中でも格別の美しさですね。白い砂浜と対岸にある南島とは同じ地質で、海の色がいわゆるボニンブルーではないのですが、いや、この色も含めてボニンブルーといってもいいですかね。とにかく目も心も奪われてしまう美しさです。早いシャッタースピードで波の動きを止めて表現したことで透明感がいっそう強調され、その形も面白い造形になりました。作者は普段からいろいろな波を見つめているのでしょう。シャッターチャンスがとても斬新で波の影がとても面白い。現在はこの海岸へのエントリーは海からだけのようですね



銀賞

「見つかったあ」 今井 寛治

■榊原特別審査員コメント

とてもカラフルでおもわず見入ってしまいました。クマノミのこどもの目がとても印象的でかわいらしいです。サンゴイソギンチャクに透明感があるので対比させたところが効果的でした。

かなりクローズアップに撮影されているのでカメラぶれなど気を使われたのでしょうか。海の中も距離感を変えて眺めてみると新鮮な驚きがたくさんありそうですね。

■榊原特別審査員コメント



銅賞

「Tropical Sunset」 仁科 研一

まさしくトロピカルな色合いの夕日。こんな素敵な瞬間にこの場所にいられたこと、一生の宝物ですね。海も空も色が溶け合っているようです。海岸林のシルエットをうまくとりいれて構成していますね。黒い色が入ることで夕日の色の鮮やかな印象がいつそう際立ってきます。遠近感もよく出ています。波の表情が、まったりとしていて、時がゆっくり流れているように錯覚してしまいます。この波の感じを出すためにはシャッタースピードの設定がポイントですね。



特別賞
「目線の先に」 松木 一郎

■榊原特別審査員コメント

世界中で小笠原・母島にしかないメグロ。カメラを構えるとけっこうすばしっこくて、落ち着いていないという印象を私は持っています（笑）この作品は望遠レンズで背景をぼかして、手前の枝もバランス良く配置して、シャープにメグロの姿をとらえています。目にしっかりとピントが来ているので、次に行動を起こそうという一瞬だという臨場感がこの視線からうかがうことができます。動きを感じさせる要素が画面の中にあるというのは野生生物の撮影には欠かせませんね。



特別賞
「生命渦巻く 海へ」 古川 智裕

■榊原特別審査員コメント

写真なのに動画を見ているような動きのある迫力を感じます。水の中でこんな魚の大群に囲まれたらどんな気持ちになるのでしょうか。一度体験してみたいですね～。ウメイロの体色が蛍光色のように光って見えるのも面白いですね。



特別賞
「The moment independent」
伊関 毅

■ 榊原特別審査員コメント

何とも不思議な写真ですが、とても魅力的です。サーファーの人が感じている海へのあこがれのようなものが、伝わってくる作品ですね。

サーフボードからみている海の景色は新鮮な驚きがあります。早いシャッタースピードで撮られたデジタルカメラならではの長所をいかした作品ですね。逆光での狙いも良かったと思います。



特別賞
「星ふる島」 和田 愛

■ 榊原特別審査員コメント

素敵な旅をされた作者の思いがこもった写真です。小笠原の星空がきれいなのは写真に撮ってみるとよくわかります。天の川は特に圧巻ですね。星空だけを撮るのでなく、この作品のように小笠原の象徴的な風景を入れ込んで撮影すると旅の印象がもっと深まることでしょう。



佳作
「ハートロックより」 下岸 克也

■榊原特別審査員コメント

ハートロックを海から眺めたら、ハートロックから海を眺める。小笠原の旅の楽しみ方の一つとして定着してきていますね。超広角レンズで広くとらえた作品。小笠原のスケール感がうまく出ていますね。太陽の光が強いのでレンズのハレーションに気をつけると、クリアな写真に仕上がります。



佳作
「すてきな楽園」 三浦 弥寿美

■榊原特別審査員コメント

砂地に映ったイルカの影がとても魅力的です。優雅に泳ぐイルカの姿がゆったりと流れるおがさわら時間を感じさせてくれます。幻想的な色調はまさしく楽園ですね。



佳作
「ウシバナトビエイの群れ」 石井 栄一

■榊原特別審査員コメント

ウシバナトビエイも小笠原では群れに遭遇することで、ダイバーの間では有名だとか。この作品も下の砂地の影と模様がポイントになっていますね。お腹の白い色と背中の中の黒い色のコントラストが青い海の色とマッチしています。



佳作
「竜宮城までついておいで」 加藤 修

■榊原特別審査員コメント

タイトルのように竜宮城に案内してくれているみたいですね。兄島瀬戸に面している釣浜は目の前に兄島があってロケーションは私のお気に入り場所の一つです。海の中も変化に富んでいて美しさには定評があります。沖の潮の流れが速いので十分に気をつけてくださいね。水の中では意外と動きが速い亀。泳ぐ様子を良いタイミングでとらえています。



佳作
「集合」 齋藤 洋子

■榊原特別審査員コメント

アジアコショウダイは普段は単独で行動していることが多いとか。台風の影響で潮の流れが速くなっている状況で岩陰に身を隠しているところだということで、珍しい光景なのですね。写真だけ見ているとなんとなくユーモラスな集合写真ですね。



佳作
「Heartful 愛land」
三田村 由香

■榊原特別審査員コメント

おー、このカットはグッドタイミングですね！イルカやクジラに出会える小笠原の海ですが写真に撮るのはけっこう難しい。姿が見えてからシャッターを押すと、出来上がった写真はだいたい頭の先が水の中ということが多々あります(笑)ある程度の予測が良い写真への第一歩。ハートロックの真ん前でこの写真を撮れたことが羨ましいです。奇跡の1枚といってよいでしょう。



佳作
「水の衣を纏いて」 風間 一範

■榊原特別審査員コメント

この作品はザトウクジラのブリーチングで着水する直前のショットですかね。風の強いこともあって細かい水しぶきが衣をまとっているように見えますね。イメージによってシャッタースピードを速くするのか遅くするのかを決めることがザトウクジラ撮影のポイントです。またブリーチングはいつ飛び出すかの予想ができないので、その一瞬がとてもドラマチックに訪れますね。



佳作
「集まる野鳥(メグロ)」 水野 紘一

■榊原特別審査員コメント

メジロとメグロのスリーショット。なかなか珍しい組み合わせですが小笠原でしか撮れない写真ですね。背景の光あふれる緑の輝きも小笠原バージョンといったところですね。



佳作
「また来てね！！」 澤田 一夫

■榊原特別審査員コメント

何度体験してもまた帰ってこようと心に思ってしまう感動的なお見送りシーンですね。船の航跡が模様のように強調された画面構成がとてもおしゃれな作品です。海の色がとてもきれいですね。



■榊原特別審査員コメント

カツオドリに白い雲と虹。島を離れても楽しませてくれたなんて素敵な旅のエンディングでしたね。おがさわら丸のデッキでは360度海なので右舷と左舷では全く異なった光の海や空の景色が体験できます。虹に出会う確率はけっこう高いですよ。

佳作
「旅の終わりに」 熊田 奈生美